

発行日



MIRANAGA PRESS
第00001号

みらながプロジェクト」だ。これは、2040年に「住みたい都市」として起業家、クリエイターなどから選ばれること、また、市民が愛着を持ち続けられることを目指す、大規模な都市プランデイングプロジェクトだ。長野市が持つ価値やポテンシャルを整理・言語化し、未来の都市イメージを伝える言葉やロゴなどをつくることを目指している。

野市が旗振り役になりつつも、市民とともに取り組んでいることだ。若手経営者、長野市出身者、Z世代、女性移住者など幅広い属性・世代の人々を対象に、ヒアリングとワークショップを実施している。

ヒアリングには、長野市出身の大手IT企業の執行役員や映像作家、市内で活躍する若手事業者など計11名が参加。「自然と生活、仕事が融合し

長野市の未来を占う新たなプロジェクトがはじまる。その名も「みらいのながのジエクト」(以下、

「みんながプロジェクト」

The logo features the text "2019NPB" at the top. Below it are four large, bold characters representing the teams: "東京ヤクルトスワローズ" (Tokyo Yakult Swallows) in red and blue, "横浜DeNAベイスターズ" (Yokohama DeNA BayStars) in red and blue, "福岡ソフトバンクホークス" (Fukuoka SoftBank Hawks) in red and blue, and "阪神タイガース" (Osaka Tigers) in red and blue.

おもてなし

長野市都市
ブランド
推進室エド



世界の“NAGANO”の 知名度を活かしていきます



萩原 健司

長野市は、日本で3つしかないオリンピック開催都市。それゆえに「NAGANO」という都市名は、すでに世界的にも広く知られています。これから長野市の都市ブランドを創り上げていく上で、このアドバンテージはとても大きいのではないでしようか。どの古い物事を大切にしながらも、新しいことに挑戦していく勇気を持つて、2040年の長野市を創っていきましょう。

ている」「チャレンジしやすい風土がある」など、すでに貴重な声が上がっている。一方、ワークショッピングは、全4回を実施する予定だ。10月11日に実施した第1回目のワークショップにはなんと荻原健司市長も参加。「長野市に暮らしていて、よかつた／惜しいなと思う瞬間は?」「未来の子どもたちにプレゼントするなら『どんな長野市らしさ』を残したいですか?」など市民の立場から参加者と熱く意見を交わし合った。ワークショップ終了後のアンケートでは「自然溢れる都市でのワークライバルансがいい」「市民みんなが『このまちが好き』

と思えるような気づきを与えたいたい」などと語っている。

また、第1回目のワーキショップに参加したほかの市民からは「視野が広がった」という意見のほか、「もっと話を深めたい」といった意見も出ていることからも、2時間という限られた時間には収まりきれないほど白熱した議論が展開されたことがわかる。どうやら多くの参加者にとって改めて「長野市全体の魅力」「未来の長野市」について改めて真剣に向き合い、語り合う場となつたようだ。

これからますます本格化するみらながプロジェクトの動向から目が離せない。

**市民意識調査に
ご協力ください!**

調査票配信日時：
11月18日(金)10:00

長野市の魅力や価値などについて、市民の皆さんからご意見をお聴きしたいと考えています。ながの電子申請サービス、もしくは長野市公式LINEアカウント（友達登録がお済みの方）より、期間内にご回答をお願いします。もしよろしければ、ご家族やお知り合いにもご紹介いただければ幸いです。

調査回答期間：11月18日（金）10:00～11月30日（水）23:59
※長野市ホームページから調査票をダウンロードいただき、メール（✉ toshibrand@city.nagano.lg.jp）又は郵送（〒380-8512 長野市役所 全面調査都市ブランド推進室）でご回答いただくことも可能です。

ながの電子申請 サービス



独占 告白

私が見た長野市とは? 長野市民5人の声

ヒアリングを
じた方のご意見を
一部紹介します。

ヒアリングを
した方のご意見を
一部紹介します。

長野市都市プランティングの「これま」
はじまりは2年前。「みらながプロジェクト」の前夜

都市ブランドティングとは？

独占 告白

私が見た長野市とは? 長野市民5人の声

ヒアリングを
じた方のご意見を
一部紹介します。

長野市都市プラン はじまりは2年前。「ス

デイシングの「これま」 らながプロジェクト」の前夜

都市プランディングとは？



鈴木 隆治さん

(鈴木土地株式会社 代表取締役社長)

長野はとにかく居心地がいい。その言葉に尽きます。たしかにライブやイベントは東京の方が多めで、美味しい飲食店もたくさんある。でも、新幹線に乗つて帰つて長野駅に降り立つたとき、不思議と落ち着く感覚があるんですね。きっとその背景には、自然と共に育んだ背伸びしそうな、自然の風土がある気がして、都会になることを追いかけるよりも、身の丈にあつたことを愚直にやり続ける。お金をかけるよりも、手間をかける。長野市そのまんの風土が好きです。ストレスフルな昨今、山々を仰ぎ見ながら笑顔で生活するつて俺は好きだな。



月原はる菜さん

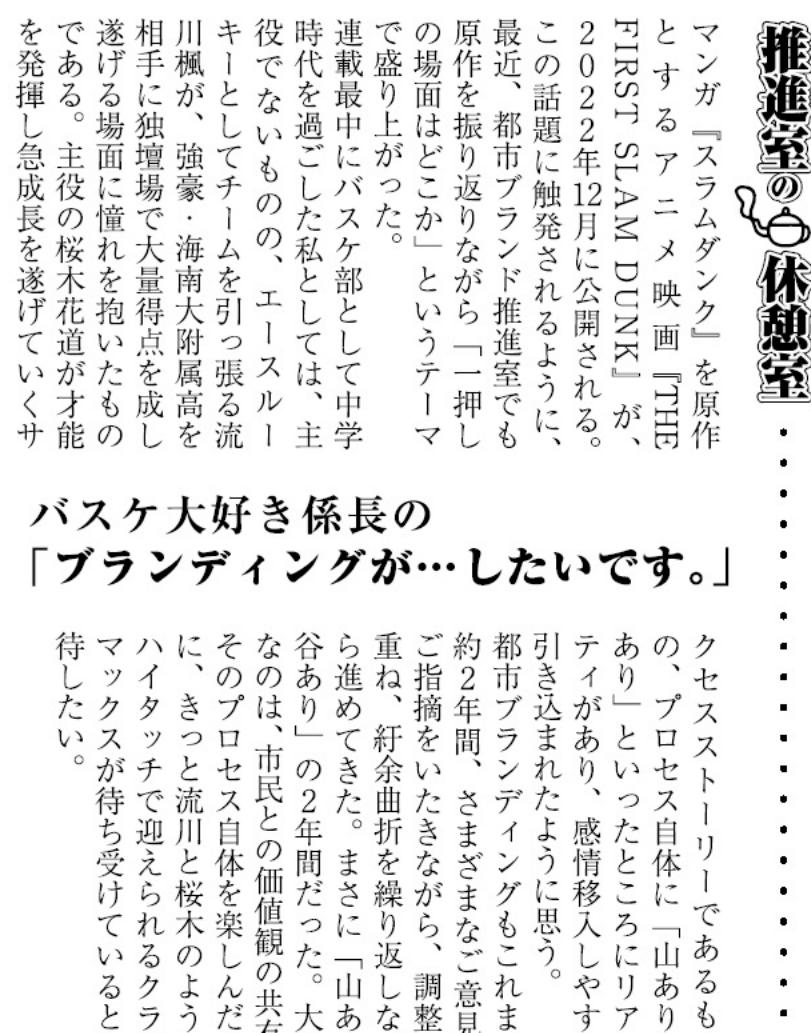
(映像クリエイター)

東京はすつと「オン」、長野市はすつと「オフ」の感覚

大学進学で、一度長野市を離れたんです。ですが、就職のタイミングでUターンしてきました。その理由は、長野市で暮らした方がストレスが少ないと思ったから。実家も近くで安心だし、生活コストも低い。今は7万円の家賃で駐車場付きの戸建てに住むことができます。そして、なにより豊かな自然に

すぐに触れられることが私にとって一番大きかったですね。

東京はすつと「オン」の感覚で生きていったけれど、長野市はすつと「オフ」の感覚。とても生きやすいですね。



バスケ大好き係長の
「ブランディングが…したいです。」

クセスストーリーであるもの、プロセス自体に「山ありあり」といつたところにリアティがあり、感情移入しやす引き込まれたよう思う。都市プランディングもこれまで約2年間、さまざまご意見ご指摘をいたきながら、調整重ね、糺余曲折を繰り返しながら進めてきた。まさに「山谷あり」の2年間だった。大きなのは、市民との価値観の共存そのプロセス 자체を楽しんだに、きっと流川と桜木のように、ハイタッチで迎えられるスマッシュが待ち受けていると待したい。

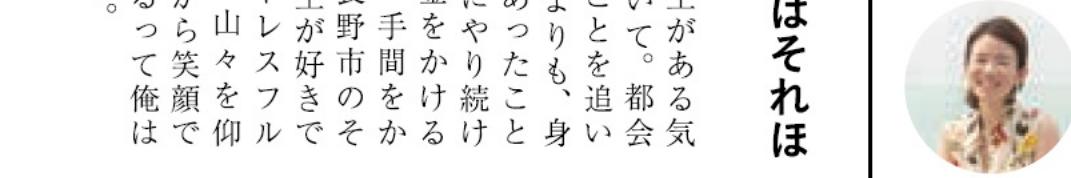


上村遥子さん

SUNDRED 株式会社 チーフエバンジェリスト・コミュニティデザイナー
株式会社天地人 事業開発リーダー)

長野市は、古いものへのリスクが高いです。新しい取り組みも生まれているけれど、古いものも大切に残している。リノベーションした店舗が立ち並ぶ門前エリアを見ても、その風土がよく感じられます。

あと、自然が豊かだとよく言われるけれど、單なる自然ではないんですね。そこにも、ちゃんと歴史と文化の香りがするんです。たとえば、修験道で有名な戸隠なんて良い例。イスラムの友人から「渋い文化があるね」と言っていました。

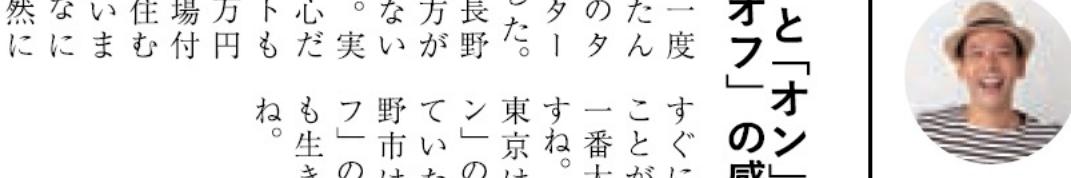


度邊さやかさん

長野県立大学大学院 ソーシャル・イノベーション研究科 専任講師)

長野市は、「ライフ」と「ワーク」が溶け合つているような気がします。長野県立大学で起業する学生から話を聞くと、「成功するぞ!」と意気込むのではなく、力みすぎないで自然体で起業していく学生たちが多いんですね。大学を選んだ理由も「起業するにも、住むにも、長野市は良い環境だから」という理由が多いようです。

ただ、もつとグローバルな視点があつてもいい。グローバル教育やネイティブとの交流があると、もつと面白い街になるんじゃないでしょうか。

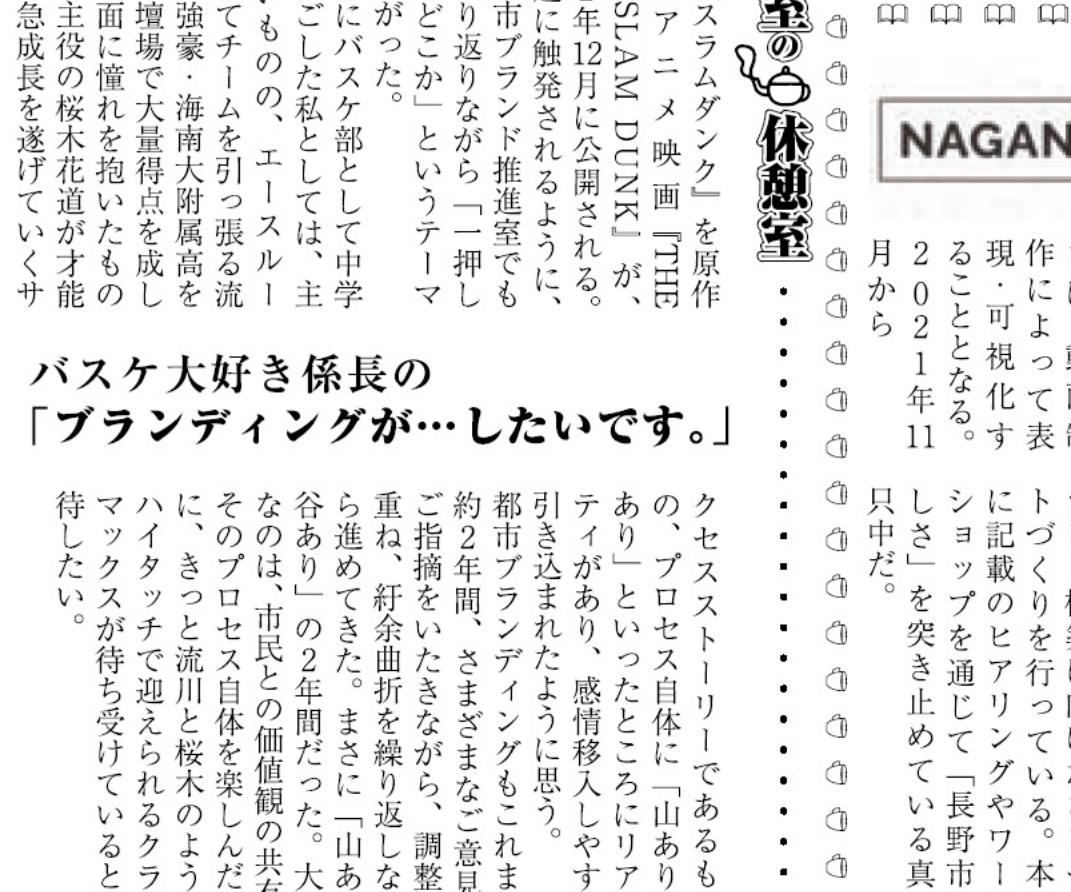


くろやなぎ てっぺいさん

企画・映像・音楽)

長野市民って、みなさくやさしいですよね。東京から移住してきて驚いたのが、道路を渡りたいときクルマが停まつてくれること。そんな気質の背景には、自然に恵まれていることもあるんですね。というのも、自然に囲まれていると、エゴが小さく感じられて、自分自身との向き合い方、そして、他人との付き合い方も変わつてくるようになります。

しかも、自然環境だけじゃなく、公園もたくさんあって癒やしの場が多い。人口密度も高すぎないので心地いいですよ。



**市内の若手プレイヤー大集合!
みうながプロジェクト第1回
ワークショップ実施**